

○声に出して読む。○分からない言葉読み方意味は、赤線を引く。

内容

名前

5月3日は憲法記念日 声に出して読もう

かしわ餅^{もち}のおいしい季節です。あのもっちりとした歯ごたえ、とろけるあんこ、そして独特のカシワの葉の香り…ああ、5月っていいな。新型コロナウイルスのお陰で沈^{かげ}みがちな気分も、かしわ餅を食べ、晴れた5月の空を見上げると、のびのびとしてきます。「あの時のあの人の気持ちは、ちょっとこんな感じだったかも」。ふとそんな思いがわいてきました。

あの人とは、私の大好きな劇作家^{げきさつか}、井上ひさしさん。あの時とは、日本が太平洋戦争に負けて、戦争が終わった日のことです。その時、井上さんは小学5年生。当時、男の子は「日本のために戦争で立派に戦え」と教え込まれていました。井上さんは「優秀な子^しは士官学校^{しかんがっこう}（軍隊の幹部^{かんぶ}を育てる学校）を目指した。僕みたいな運動が苦手な子は、爆弾^{ばくだん}を抱えて戦車^{せんしゃ}の下で自爆^{じばく}する練習です。」と話してくれました。国のために犠牲^{ぎせい}になるのがいいことだ、自分の好きなことをするのはもってのほか、先生や目上^{めじやう}の人のいうことを聞かなければ殴^{なぐ}られる…。そんな日々が、敗戦で一変します。

井上少年は空を見上げました。それまでは敵の飛行機がくるかもしれないから、空を見上げようとは思わなかった。今はどれだけ見ていてもいい。生きていていい。自由なんだ。

「なぜあんなひどい戦争をしたのか」「戦争を繰り返さないためどうしたらいいのか」。それは井上さんの生涯^{しょうがい}のテーマになります。日本国憲法、特に「日本は戦争をしない」と明記した9条の大切さを訴^{うた}え続け、その思想は「井上ひさしの子どものに伝える日本国憲法」「『けんぼう』のおはなし」など、子ども向けの本にもなっています。

今年は戦後75年。9条についていろいろな議論がありますが、この75年、日本は一人の戦死者も（敵も味方も）出していません。それは世界でも珍しいことです。例えば、世界で突出^{とっしゅつ}した軍事力を持つアメリカは、数万人の兵士が戦死したり行方不明になったりしています。相手方の死者は、市民も含めその何倍にもなります。

一度、憲法前文を声に出して読んでみてください。私たちの国の基本となる憲法の、その精神を書いたものですから、一度ぐらい声に出して読んでみてもいい。そして読み上げる自分の声を、大人になっても忘れないでほしい。5月3日は憲法記念日。かしわ餅^{もち}のおいしさと一緒に、どうか忘れないでください。

感想

